

第4章 団体調査結果からみた本庄市の現状

1. 調査の概要

(1) 調査の目的と実施概要

本計画を策定するにあたって、市内の教育・保育関連団体、子育て支援関係団体、こども・若者育成団体等を対象とした団体調査を実施しました。

■ 調査の実施概要 ■

調査種別	子育て環境の向上に関するアンケート（団体調査）
調査対象	教育・保育関連団体、子育て支援関係団体、こども・若者育成団体等
調査方法	郵送法
調査時期	令和6年8月～令和6年9月
調査地域	本庄市全域
配布数	112
有効回収数	70
有効回収率	62.5%

(2) 調査結果における数値の基本的な取り扱いについて

- 比率は全て百分率（%）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100%を上下する場合があります。
- 基数となるべき実数は“n = ○○○”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。
- 質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問です。そのため、各回答の合計比率が100%を超える場合があります。

2. 団体調査の結果（概要）

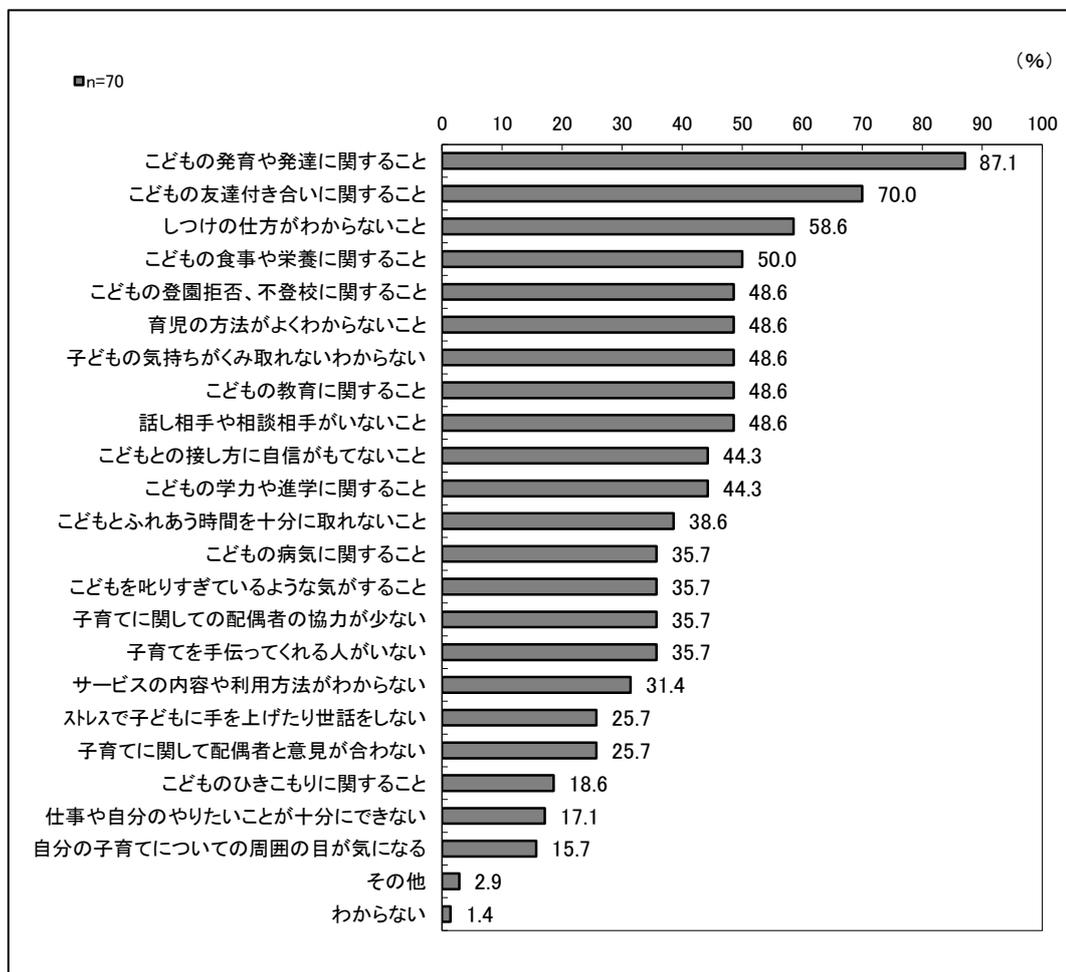
（1）保護者が抱える悩みや問題

問2 保護者が子育てに関してどのような悩みや問題を抱えていると考えますか。

【複数回答】

「こどもの発育や発達に関すること」(87.1%) が最も多くなっています。
その他、「こどもの友達付き合いに関すること」(70.0%)、「しつけの仕方がわからないこと」(58.6%)、「こどもの食事や栄養に関すること」(50.0%) が50%以上の回答を集めました。

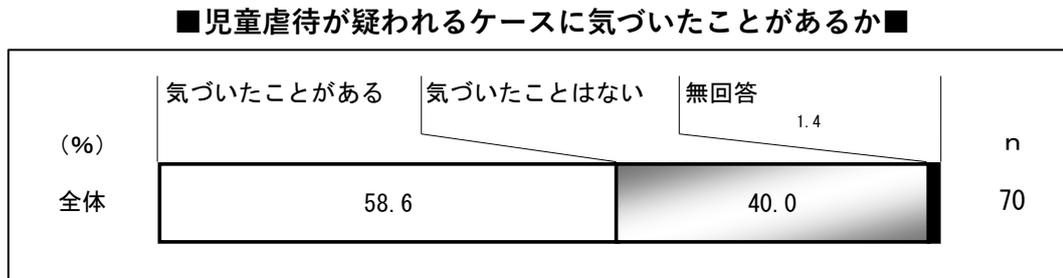
■保護者が抱える悩みや問題■



(2) 児童虐待が疑われるケースに気づいたことがあるか

問3 これまでの活動の中で、児童虐待が疑われるケースに気づいたことがありますか。

「気づいたことがある」(58.6%)が過半数を占めています。



(3) 児童虐待を防ぐために必要な取組

問4 児童虐待を防ぐために必要な取組はどのようなことだと考えますか。

(1) 団体・事業所ができること (一部抜粋・要約)

- 保護者や子どもとの信頼関係を築き、相談しやすい雰囲気を作ること。
- 職員の研修や職場環境の整備を行い、虐待予防の知識を深めること。
- 早期発見のために日々の観察を徹底し、変化を見逃さないようにすること。
- 情報共有や行政との連携を強化し、疑わしいケースがあれば速やかに報告すること。
- 保護者の悩みや不安を傾聴し、育児のアドバイスを行うことで、育児不安を軽減し、虐待を未然に防ぐこと。

(2) 地域・行政に求めること (一部抜粋・要約)

- 児童虐待に関する講演会の開催や専門家による研修を充実させ、保護者や職員の知識を深めること。
- 家庭訪問や早期発見のためのサポートを強化し、気軽に相談できる窓口を設けること。
- SNSを利用した相談事業や情報共有の仕組みを整え、地域住民や関係機関との連携を強化すること。
- 孤立を防ぐための親子参加イベントや、経済的支援の充実を図り、家庭の状況を把握し、必要な支援を行う体制を整えること。

(3) 家庭に求めること（一部抜粋・要約）

- 児童虐待に関する知識を深めること。
- 地域との交流を増やし、支援センターなどに積極的に相談することで、悩みをひとりで抱え込まないようにすること。
- 衣・食・住の安定した環境を提供し、冷静で寛容な子育てを心がけること。
- 子育てに困ったときには信頼できる人や機関に相談し、家庭内での問題を周囲と共有すること。
- 相談窓口の利用や積極的なコミュニケーションを通じて、子育ての負担を減らし、虐待を未然に防ぐこと。

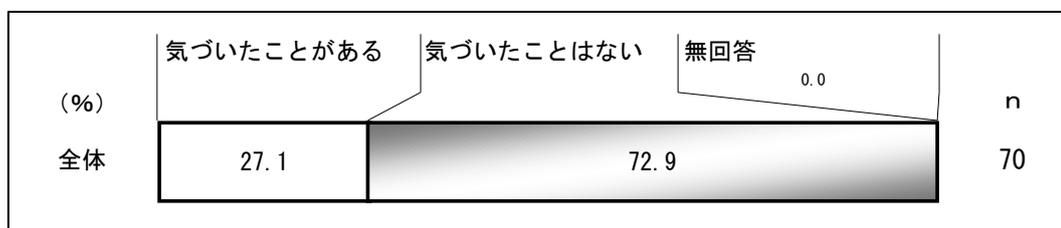
(4) ヤングケアが疑われるケースに気づいたことがあるか

問5 これまでの活動の中で、ヤングケア（ヤングケアラー）が疑われるケースに気づいたことがありますか。



「気づいたことはない」(72.9%)、「気づいたことがある」(27.1%)。
全体の3割弱が「気づいたことがある」と回答しています。

■ヤングケアが疑われるケースに気づいたことがあるか■



(5) ヤングケアラーを支援するために必要な取組

問6 ヤングケアラーを支援するために必要な取組はどのようなことだと考えますか。



(1) 団体・事業所ができること (一部抜粋・要約)

- こども自身がヤングケアラーについて学ぶ機会を提供し、疑われた際には情報共有を徹底すること。
- ヤングケアラーを尊重し、彼らの健康を守るために協力機関との連携を図ります。家庭の様子を把握し、未就園児を預けられる環境を整えることで、兄弟の負担を軽減すること。
- 保護者との信頼関係を築き、福祉サービスに関する情報提供を行い、相談しやすい環境を作ります。さらに、こどもの声を聞き、早期に問題を発見し、必要に応じて専門機関につなげること。

(2) 地域・行政に求めること (一部抜粋・要約)

- ヤングケアラーに関する研修会を開催し、こどもを個人として尊重し、関係機関との連携を図ること。
- 現状の調査を行い、ヤングケアラーやその家庭をフォローする体制整備。
- 家事代行サービスの提供や、同じ境遇の人々が交流できる場を設けること。
- 情報提供や支援内容の周知を徹底し、地域の見守り体制の強化。
- 迅速な対応と、具体的な支援の充実を図り、ヤングケアラーが助けを求めやすい環境を整えること。

(6) 本庄市の子育て環境の問題点や課題また解決に向けての取組等

問 12 日頃の活動を通じて、本庄市の子育て支援や子育て環境について、現在の状況や問題点・課題と感じていることがありますか。また、課題解決に向けて、貴団体として取り組めることや取り組みたいことがありますか。

自由記述欄への回答（一部抜粋・要約）

- 共働き家庭が増える中で、小学生を安心して預けられる施設の不足。
- 保育園や学童の不足が深刻で、共働き家庭やひとり親家庭にとって大きな負担となっている。
- 子育て支援センターの利用が限られているため、孤立している親への支援が課題。
- 発達に遅れがみられるこどもや「気になる子」への支援、医療機関の不足、学校との連携の難しさ。
- 親子で遊べる場所の提供や産後ケアの利用手続きの簡素化
- 地域の子育て支援団体の横のつながりを強化し、情報交換の場を設けることで、切れ目のない支援を提供する。
- 孤立している親への支援として、子育て支援センターの利用促進や情報提供を行い、地域全体で支える体制を整える。

(7) 子育て支援や環境について充実していると思うところ

問 15 本庄市の子育て支援や子育て環境について、充実していると思うところはどんなところですか。

自由記述欄への回答（一部抜粋・要約）

- 市内には多くの保育園、幼稚園、こども園があり、待機児童がない。
- 子育て支援センターや児童センターが多数存在し、乳幼児向けの支援活動が豊富で無料で参加できること。
- 児童センター内の遊びや、公園の整備・新しい遊具の設置により、小さいこどもが楽しく安全に遊べる環境が整っている。
- 産後ケアが計 21 回利用できる点や、保健師の熱心な支援が充実している点。
- 保健センターや発達教育支援センター「すきっぷ」で、育児や発達に不安を感じた際にすぐに相談できる体制が整っている。
- 子育て支援アプリで予防接種スケジュールや成長記録などの情報が入りやすい。
- 地域での行事やイベントが豊富で、親子で楽しめる場所や催しが充実している。
- こども医療費の助成や相談体制が充実している。